

弊社に対する放火テロ事件撲滅に向けて

弊社従業員3名が殉職したドン・キホーテ浦和花月店における忌まわしい放火事件の悲しみも癒えぬ12月26日未明、ドン・キホーテ環八世田谷店がまたしても不審火に襲われ、店舗2階部分をほぼ焼失するに至りました。

既報のように12月13日の浦和花月店全焼以降、この環八世田谷店を含め、弊社ではごく短期間に複数の店で放火事件が発生、まさに悪の連鎖とも言うべき常軌を逸した事態に見舞われております。

環八世田谷店については、幸いお客様も従業員も全員無事に避難したものの、浦和花月店に次ぐ甚大な被害をこうむりました。まだ犯人の特定はされておりませんが、本件は明らかに浦和花月店の放火を真似た模倣犯、愉快犯の仕業と思われる。

いずれにせよ、もはやこれは単なる連続放火事件というに留まらず、弊社を標的にした悪質な企業テロ犯罪とみなさざるを得ません。

弊社は現在、一連の放火事件を受け全店で厳戒態勢を敷いています。新たに防災対策本部を設置し、消防局の指導を厳粛に受け止めながら防災強化に全力で取り組むと共に、平常時の数倍に及ぶ厳重な警備体制を固めております。

しかし残念ながら、不特定多数のお客様が訪れる小売店舗において、邪悪な意志を持った放火という犯罪に対しては、いかに防災・警備を強化しても万全という言葉はあり得ません。真に万全な状態とはその根元を断つこと、つまり放火犯人を特定、検挙するか、或いは放火という行為そのものを事前に抑止することを意味します。

そうした点も踏まえ、敢えて誤解を恐れず率直に申し上げます。弊社において時ならぬ放火が多発する一因に、一連の過剰・過熱報道があるのではないのでしょうか。とりわけ、弊社に対する事実無根の言及も含む悪意さえはらんだ報道が、結果的に相次ぐ放火を惹起、助長している可能性があることを、少なくとも私は否定できません。

すなわち、「ドン・キホーテは圧縮陳列で火災が起こりやすい店だ」「にもかかわらずドン・キホーテは消防局の警告も無視する悪い企業だ」という誤った報道の繰り返し、冷酷下劣な放火犯をして、「ドン・キホーテは燃えやすくマスコミの話題になりやすい」「悪い企業だから火をつけてもかまわない」などという短絡的イメージと悪意を醸成させるに結びついているのだとしたら…。

かような可能性も含め、どうかマスコミ各社におかれましては、安易な姿勢による報道だけは厳に自粛いただきたくお願い申し上げます。それがひいては、現時点で悪の連鎖を断つ抑止策のひとつではと考えざるを得ないからであります。

もちろん当事者の弊社も、一切責任逃れをするつもりはありません。改めるべきところは改め、残虐非道な放火テロ犯罪とは社運を賭してでも断乎戦い、何がなんでもこれを撲滅させる所存です。

お客様、関係各位様には多大なご心配をおかけし、心からお詫び申し上げます。しかしこれを機に必ずや弊社は、世界一安全、安心に楽しんでいただける小売業態を確立いたします。それに向け、私も粉骨砕身の努力を惜しみません。いましばらくお待ちください。

平成16年12月27日

(株)ドン・キホーテ代表取締役社長 安田隆夫